

若き就農者が「千産」を語る



市役所で開いた座談会のようす
左から假屋さん、東海林さん、大川さん、藤本指導員

農家戸数が減る厳しい現実の中、新たに「農業」の道を選択した若き就農者たち。道央農業振興公社の進める研修制度を活用して千歳の農業の担い手となった3人に公社の藤本義範指導員を交えて、就農のきっかけや今後の目標などを伺いました。

藤本指導員（進行役） 今回の座談会に出席していただいた大川聖士さん、東海林学さん、假屋智博さんは、平成20年度にはじまった道央農業振興公社の新規就農研修制度の第1期生です。農家などで2年から3年の研修を経て、現在は市内で就農しています。

3人とも農家の出身ではなく、新しく農業を始めた方たちです。まずは、自己紹介を兼ねて現在の取組や就農のきっかけなどを話してください。

出身も経歴もさまざま「農業」を選択したきっかけ

大川 釜加の畑でアスパラやほうれんそう、ピーマンなどの野菜を生産して2年目になります。大学で農学部在籍していたこともあり、「農業は絶対に必要なものなのに、なぜ農家が減っているのだろう」などと学生同士で考えていました。

出身は青森県で、東北の大学を卒業したあと千歳の牧場に勤めていましたが、自分で独立して農業を始めたいという気持ちが強くなり、思い切って公社の就農研修に参加しました。

東海林 以前は農業と別の仕事

表 千歳のおもな農畜産物

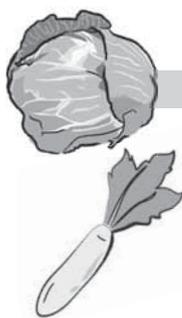
農産物（生産量と道内順位）

キャベツ	1,090トン	10位
だいこん	376トン	10位
大豆	1,100トン	13位
小豆	939トン	15位
てん菜(ビート)	3万3,100トン	25位
小麦	3,190トン	36位
にんじん	36トン	43位
そば	64トン	44位
馬鈴しょ	5,020トン	53位
水稻	794トン	78位

畜産物（飼育数と道内順位）

採卵鶏	138万6,000千羽	1位
豚	8,460頭	14位
乳用牛	5,540頭	46位
肉用牛	2,700頭	51位

※生産量・飼育数について、大豆、小豆、てん菜、小麦、そば、水稻は平成23年、キャベツ、だいこん、にんじん、馬鈴しょは平成22年、畜産物は平成19年の実績。順位は道内の179市町村中。



をしていました。現在勤務している釜加の農業法人のオーナーとの出会いがきっかけで、「自身自身の可能性が広がるかもしれない」と思い、公社の就農研修に参加しました。もともと農家になりたいと思っていたわけではなく、偶然の出会いが現在につながっています。

今は農場の責任者として麦や大豆、露地野菜を栽培しているほか、ビニールハウスでピーマンや花卉を生産しています。



假屋 私は兵庫県の出身です。以前から広大な土地で麦やピートなどの畑作を行う「北海道らしい農業」にあこがれを持っていました。

社会に出てしばらくは別の仕事をしていたのですが、農業への夢を忘れられず、7年前に家族で北海道へ移住しました。

その後、道内各地の農家や公社での就農研修を重ね、3年前から東丘で麦などの畑作と露地野菜の栽培を行っています。